**茶畑**

岡山後楽園の茶畑は、開園当初から園の主役であり、重要な役割を担ってきました。ここで栽培されている茶は、品種改良を行わず、四世紀にもわたって本来の味を保ち続けています。江戸時代（1603〜1867年）には、この茶樹から摘み取った茶葉を使って作られたほろ苦い味わいのお茶は、大名によく嗜まれていました。

もともとは散在していた茶畑が、大正時代（1912〜1926年）には手入れの行き届いた列に整備されました。現在の配置は、背後の堤防の生垣と調和しており、庭の背後の山を模した波打つような優雅なラインに刈り込まれています。後楽園の茶畑は、庭園で日常的に飲まれるお茶を生産するとともに、庭園内に典型的な田園風景を再現するなど、重要な役割を果たしてきました。

 5月の第3日曜日に園内で開催される茶摘み祭りでは、茶葉の収穫体験をすることができます。茶の名産地である岡山県美作市の「茶摘み踊り保存会」のメンバーが茶葉を収穫し、日本の伝統的な農作業用の着物を着て茶摘み踊りを披露するというもので、1956年から毎年開催されています。

茶畑の隣には、岡山城や沢の池の景色を楽しめる茶屋があります。